



ざっくり 聖書入門

「使徒たち」

教会誕生・世界宣教



【聖書入門 全12回のアウトライン♪】

■旧約聖書■

- ①アダム
- ②ノア
- ③アブラハム
- ④ヤコブ
- ⑤モーセ・前編
- ⑥モーセ・後編
- ⑦ダビデ
- ⑧エレミヤ(預言者たち)

■新約聖書■

- ⑨メシア・前編
- ⑩メシア・後編
- ⑪使徒たち
- ⑫今を生きる私たち

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. ペテロ編

教会の誕生と広がり

II. パウロ編

異邦人伝道 世界宣教

III. まとめと適用

教会時代の信者の使命



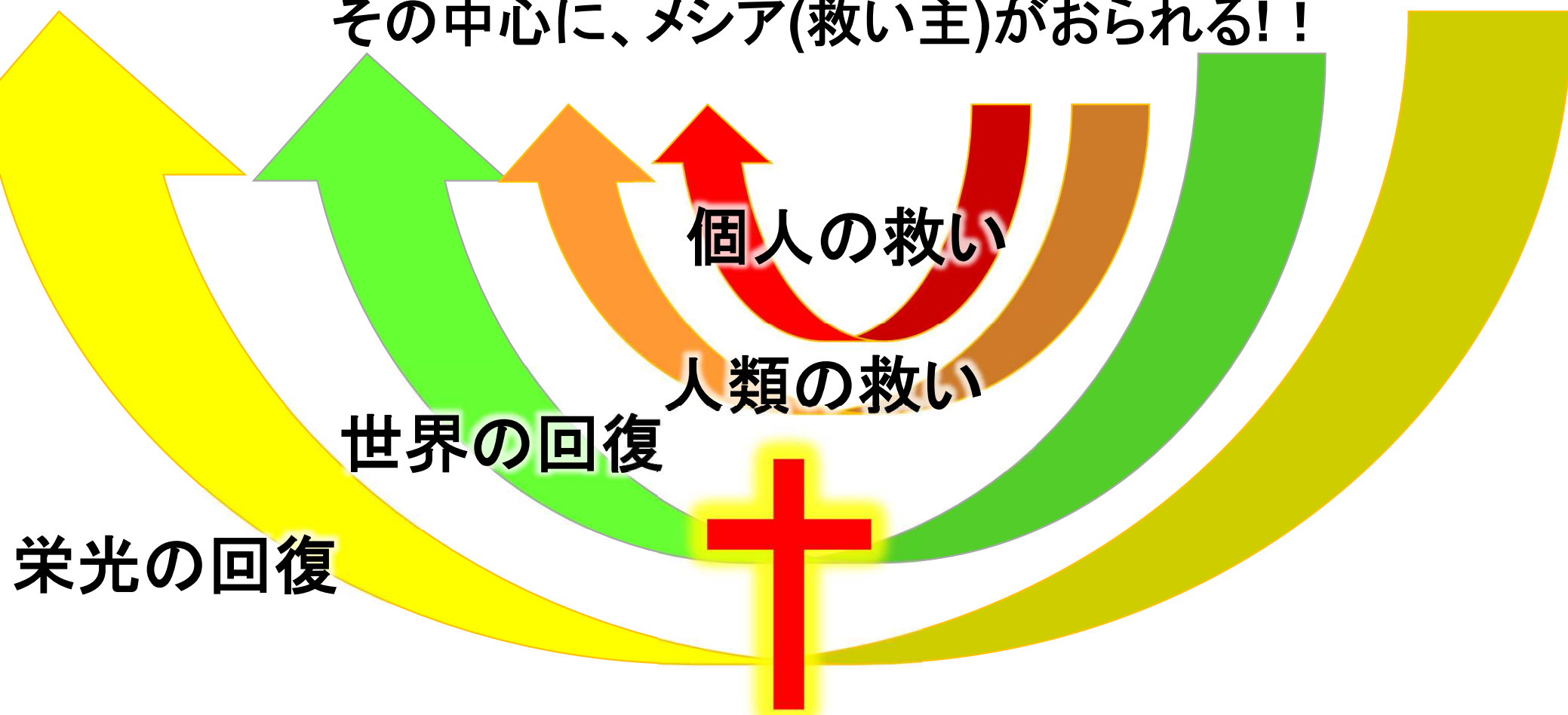


ふりかえり



聖書の最大のテーマは、「神の栄光の回復」

世界に神の栄光が回復される時、すべて回復される。
その中心に、メシア(救い主)がおられる!!



【メシアの生涯 イスラエルの拒絶、十字架と復活】

イスラエル
(指導者)



洗礼・バプテスマ

荒野の誘惑

弟子の召命

ガリラヤ伝道開始

メシア的奇跡

安息日(律法解釈)論争

ベルゼブル論争

たとえ話

五千人の食事

ペトロの信仰告白

山上の変容

エルサレム入城

最後の晩餐



紀元70年
エルサレム陥落

「神の国(天の国)」とは？ ...ベルゼブル論争以前

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

モーセ～ゼデキヤ

③神政政治の王国

メシア到来と共に!!

【地上における神の国】

「神の国(天の国)」とは？ ...ベルゼブル論争以後

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

④奥義としての王国

モーセ～ゼデキヤ

③神政政治の王国

【地上における神の国】

イエスが教えられた「神の国(天の国)」

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

新天新地

⑤千年王国

再臨～審判



④奥義としての王国

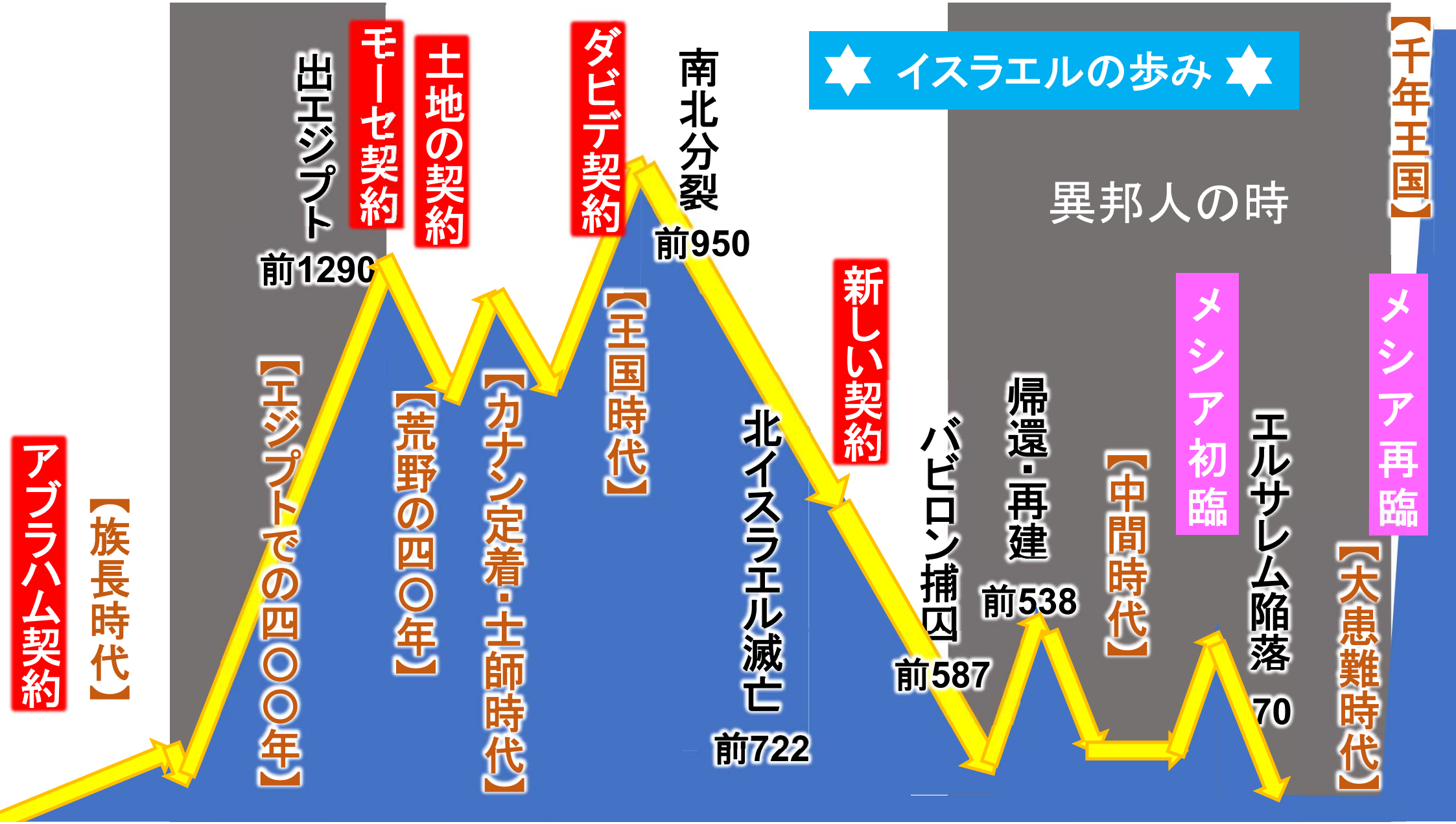
(恵みの時代)
(≡教会時代)

メシア拒否 ~ メシア受容

モーセ～ゼデキヤ
③神政政治の王国

【地上における神の国】

★ イスラエルの歩み ★



異邦人の時

アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

出エジプト

モーセ契約

土地の契約

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落

70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

【恵みの時代】
天地創造

【良心の時代】
墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】
バベルの塔事件

【約束の時代】
アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】
イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】
聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】
千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

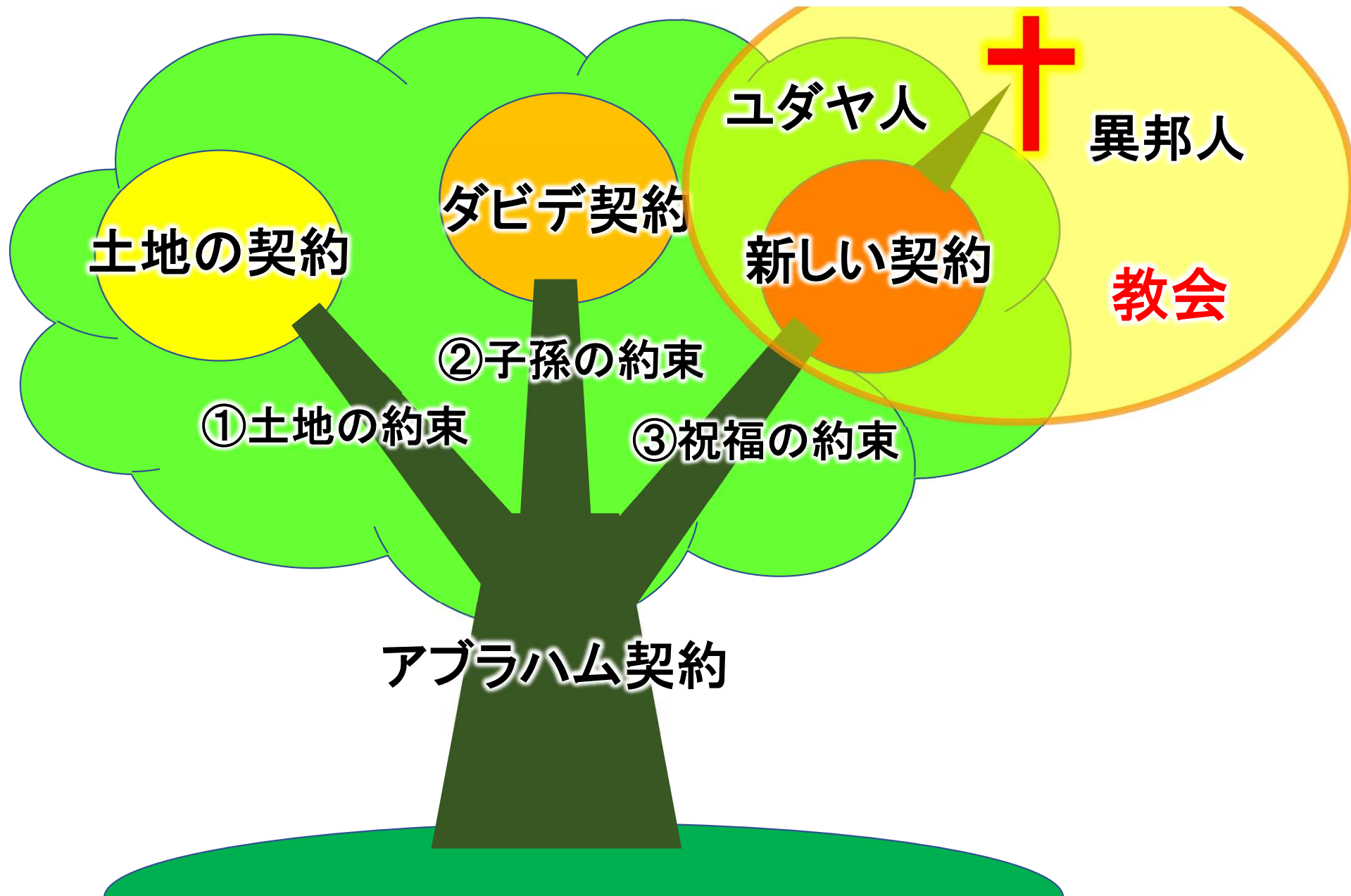
⑧新しい契約

新しい契約に基づく
恵みの時代へ!!

過去

現在

未来



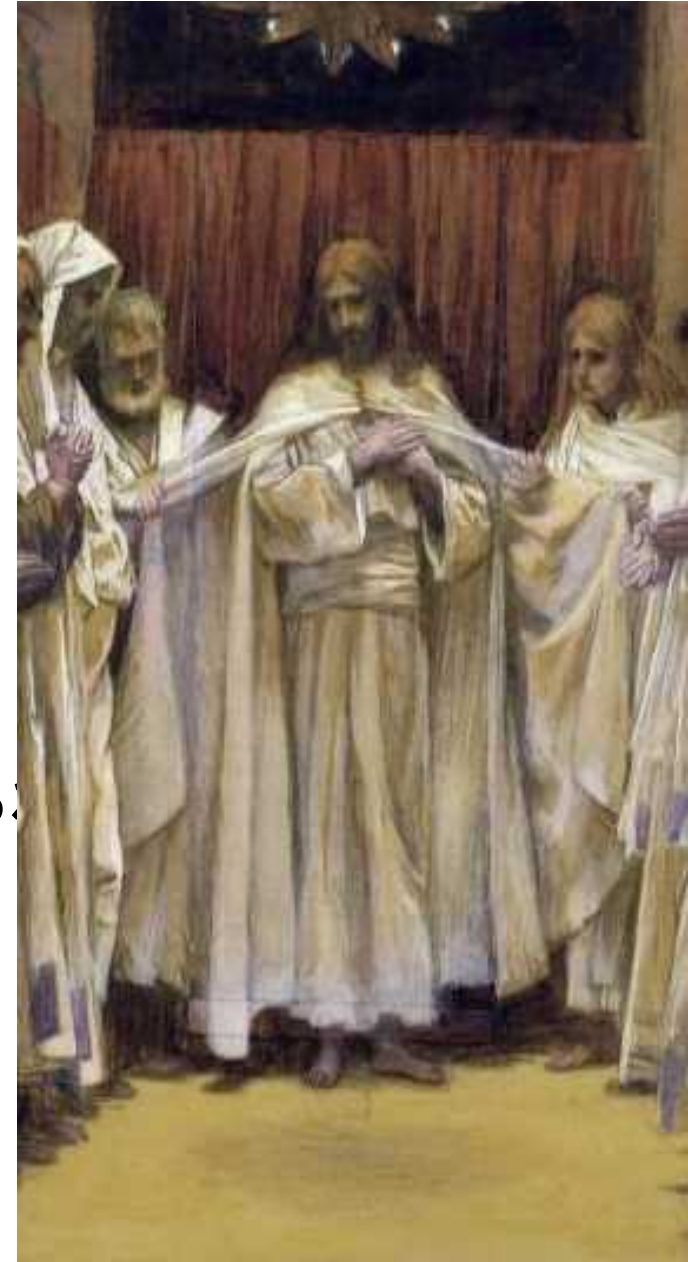
【メシアの生涯】

■ 多くの預言通り、イスラエルに誕生したメシア、イエスは、数々の奇跡によって、証拠を示した。

■ しかし、イスラエルはメシアを拒み、ローマに引き渡し、十字架に追いやった。

■ メシアは、私たちの罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、死を打ち破って復活された。

■ 昇天したメシアに代わり、約束の聖霊が弟子たちに降る。教会時代の始まりである。



I. ペテロ篇

教会の始まりと広がり



I. ペテロ篇

教会の始まりと広がり



【五旬祭・ペンテコステにて】

- イエスが十字架につけられて50日後。
天に昇られてから10日後。
- エルサレムでは、イスラエル三大祭の一つ、「五旬祭・ペンテコステ」が祝われていた。
...ヘブライ語で、シャブオット(七週の祭)。
モーセの律法の授与を記念する祭。
- 海外の「離散のユダヤ人(ディアスポラ)」も大勢集っていた。
...彼らの多くは、過越祭から五旬祭までエルサレムに滞在していた。









【聖霊降臨】 使徒2:1～4

五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。

また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話した。

■ アジア、アフリカ、中東…。世界中から集っていた“離散のユダヤ人たち(ディアスポラ)”は、出身地の言葉が話されるのを聞いて驚いた。





【立ち上がるペテロ】 使徒 2:14~15

■ 50日前、イエスを三度拒んだあのペテロが、11人と共に立ち上がり、語り始めた。

「ユダヤの人々、ならびにエルサレムに住むすべての人々。あなたがたに知っていただきたいことがあります。どうか、私のことばに耳を貸してください。」

■ 多くの巡礼者は、過越祭から五旬祭まで、都に滞在した。

■ 聴衆の多くは、十字架のイエスの目撃者だった。



【人々の反応】 使徒 2:17~18

『神は言われる。終わりの日*に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。

その日、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。』

***この時代の終わり** ➡ 主の日。大患難時代。

■ヨエル書2:28~32の預言の引用

この恵みの時代の最後の大患難時代。ユダヤ人が民族的に悔い改めたときに、最終的に実現すること。

■**終わりの日に向かう、新しい時代が始まった!!**

➡恵みの時代のゴールを見据えて話すペテロ。



ペテロが見据えていた、時代のゴール

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

新天新地

⑤千年王国

④奥義としての王国

(恵みの時代)
(≡教会時代)

メシア拒否 ~ メシア受容

再臨~審判

モーセ~ゼデキヤ
③神政政治の王国

【地上における神の国】



【ペテロの説教の要旨】 使徒 2:14～36

- 終末の裁きに向けての新たな時代が始まった。
聖霊降臨は、時代のゴールを指し示している。
“イスラエルは、大患難の末に民族的救いにいたる。”
- あなたがたが十字架で殺したイエスこそ、
約束されたメシア(救い主)だった。
- イエスは、復活し、昇天し、今、聖霊が降った。
あのダビデも、イエスの復活を預言していた。
- 終末の裁きが差し迫っているこの時に、
悔い改めて、主イエスをメシアとして受け入れよ!!

教会時代、
最初の伝道メッセージ

【最初の福音宣教の結果】 使徒 2:37～41

■ その日、3千人がイエスをメシアと信じ、バプテスマされた。

「そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。そして、一同の心に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議とするしが行われた。信者となった者たちはみないっしょにいて、いっさいの物を共有にしていた。そして、資産や持ち物を売っては、それぞれの必要に応じて、みなに分配していた。

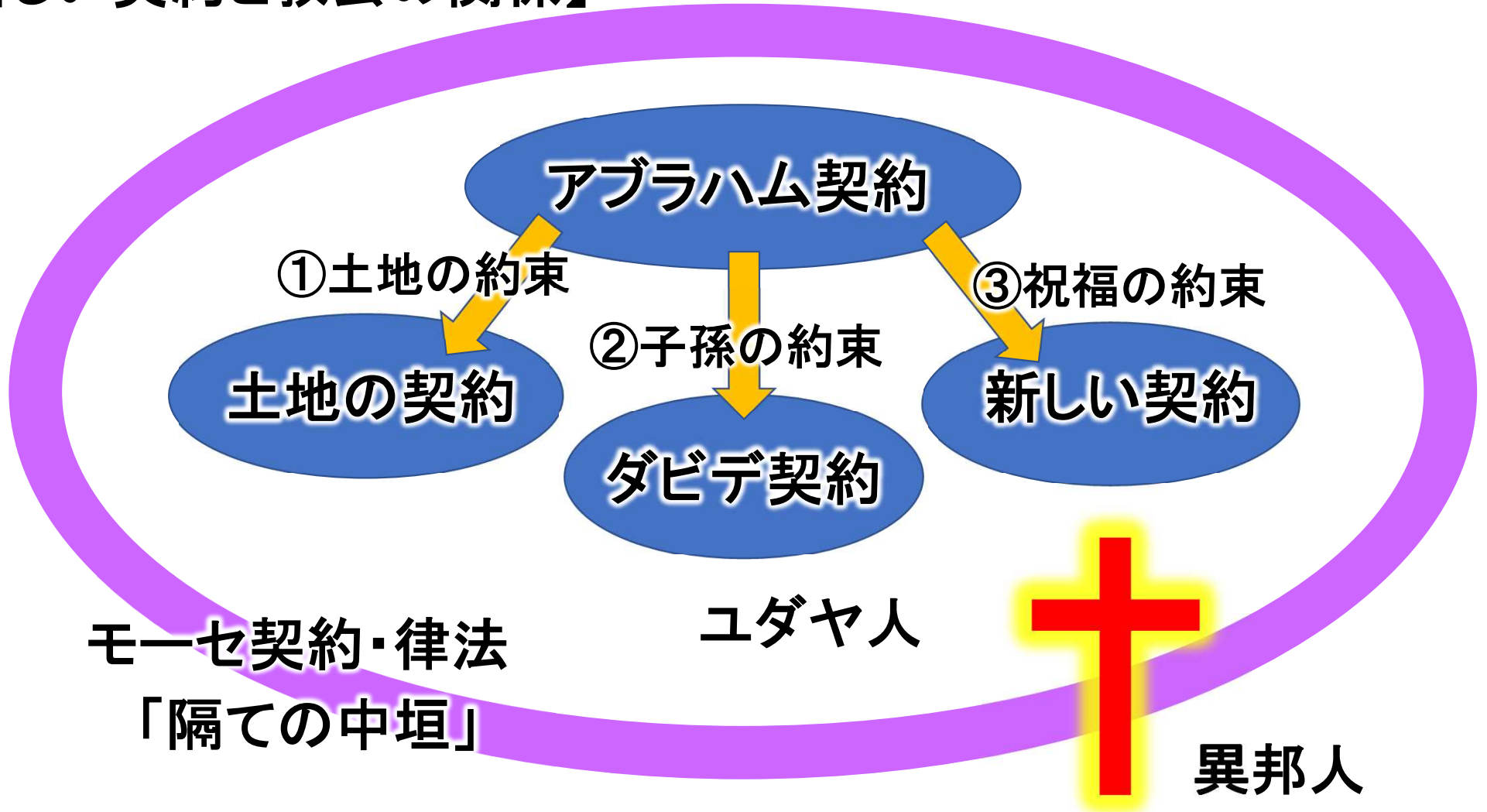
そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。

主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」

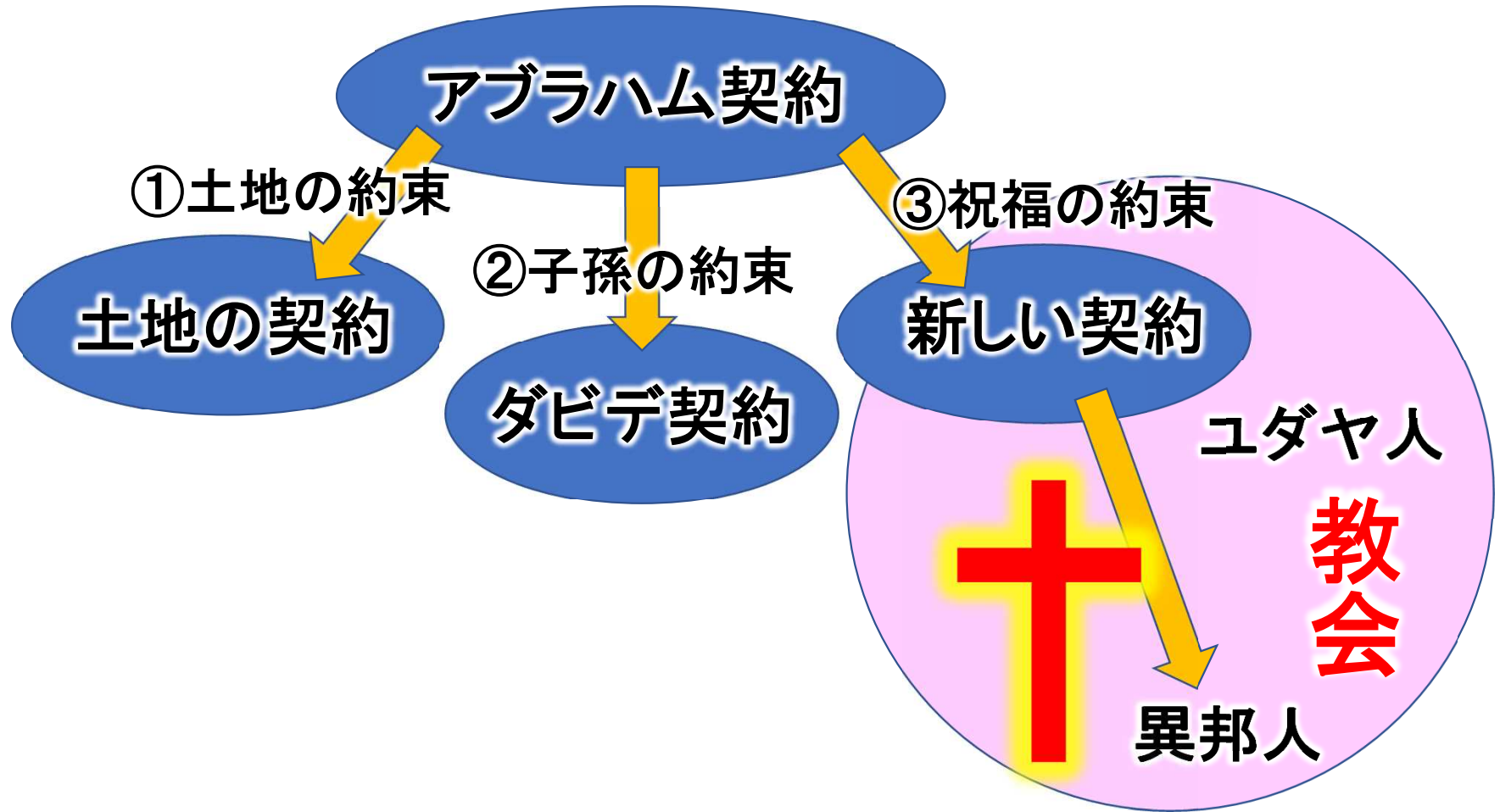
教会は、聖霊によって誕生し、聖霊に導かれて成長していった。



【新しい契約と教会の関係】



【新しい契約と教会の関係】



【イエスからペテロに託された宣教の鍵】

■ ペテロが、イエスは生ける神の子メシアと信仰告白をした時、使命が与えられた。「わたしは、あなたに天の御国のかぎ*を上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。マタ16:19」


* 福音宣教の扉を開く鍵。

①ユダヤ人、②サマリヤ人、③異邦人に使徒たちによって福音が伝えられていく!!



【①ユダヤ人宣教】 使2～6章

- 五旬祭(ペンテコステ)の日に、エルサレムで、弟子たちに聖霊が降った。
- ペテロは、メシアを十字架にかけた、イスラエルの罪を指摘し、悔い改めを促した。
- 3千人が信じ、洗礼を受けた。
- 教会が爆発的に成長する一方、激しい迫害も始まった。



教会の最初の信者は、
全員ユダヤ人!!

【ステパノの選出】 使徒6章

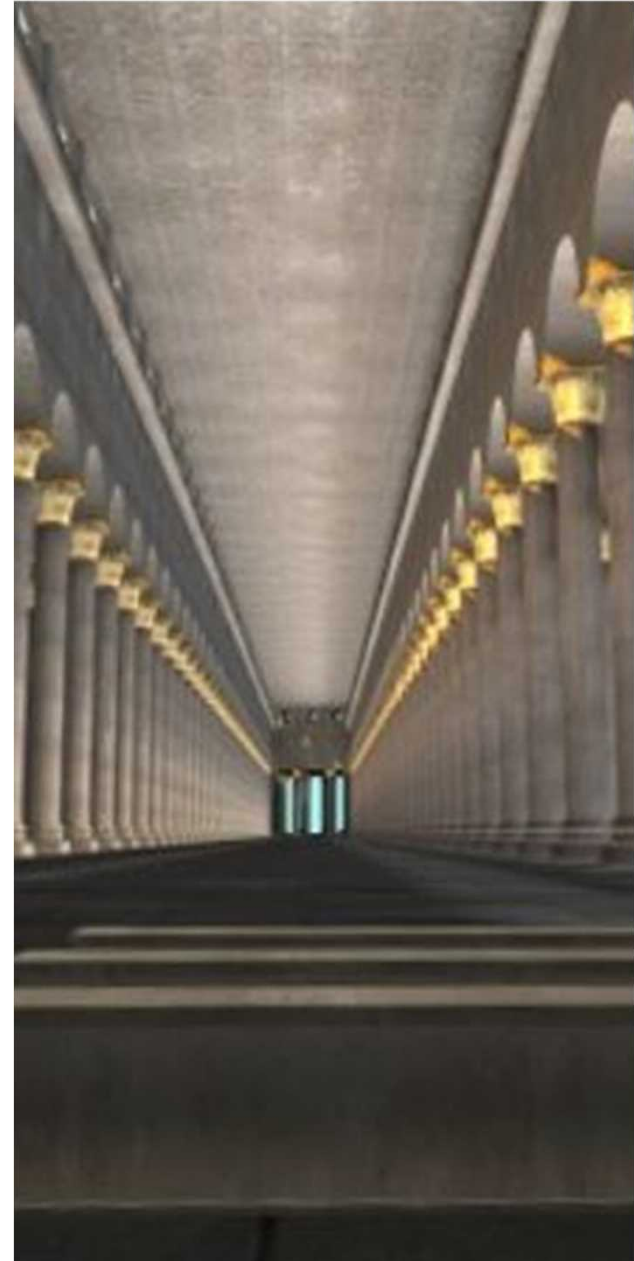
■ 教会の中でやもめへの食糧配給に関する問題が。

①生粋のユダヤ人と、②外国育ちのユダヤ人の問題が背景にあった。

■ 問題解決のために、海外育ちのユダヤ人から選ばれた7人の奉仕者の一人が、ステパノだった。

■ ステパノは、ギリシャ語を駆使して、自分と同じ、海外育ちのユダヤ人たちに、熱心に伝道した。

■ しかし、モーセと神への冒涇の容疑で逮捕され、ユダヤの最高法院の裁判に引き出された。



【ステパノの弁明】 使徒7章

- ステパノは、アブラハムから始めて、モーセ、ダビデと、イスラエルの歴史を語った。イスラエルの民は、聖徒たちを迫害し、ずっと神に反逆し続けてきたのだと。
- ステパノは、イスラエルに有罪宣告を下したのだ。
- 聖霊に満たされた、ステパノは天を見上げて言った。「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます。」
- それは、裁き主として来られる再臨のメシアの姿だった。
- 激高した群衆は、ステパノを殺せと叫んだ。



【ステパノの死】 使徒7:57～60

- 群衆は、ステパノを引きずり出し、リンチ同様に、石打ちの刑を始めた。完全に違法な行為だった。
- ステパノの顔は、天使のように輝いていた。
「主イエスよ。私の霊をお受けください。」
そして、ひざまずいて、大声でこう叫んだ。
「主よ。この罪を彼らに負わせないでください」
こう言って、眠りについた。
- その場に、サウロという一人の男が居合わせた。
➡ 迫害者だった彼は、後に回心に導かれる。



【使徒の働きが記す 福音の広がり】

イエスの昇天 1

聖霊降臨・ペンテコステ

【ユダヤ人伝道】エルサレム

聖霊降臨②

ステファノの殉教・大迫害

7

2~6

2

パウロ (15年間)

ペテロ (15年間)

【迫害とサマリア伝道】 使徒8章

- ステファノの殉教をきっかけに、エルサレムで迫害が激化した。
- 迫害の先頭に立っていたのが、あのサウロ(ギリシャ名:パウロ)だった。
- 逃れた弟子たちは、サマリアで伝道を開始した。
- イスラエル北王国をルーツに持つサマリア人は、支配国の強制移住政策によって、異邦人と入り交じり、ユダヤ人からは、異邦人同様に見なされ、忌み嫌われていた。



【②サマリア人宣教】 使8章

■ ステパノと共に選ばれた7人の一人ピリポは、サマリアで伝道の中心を担った。

■ 多くのサマリア人が、イエスこそ聖書に預言されたメシアだと信じた。

■ サマリアは、かつてイエスが直接伝道された地。蒔かれた種の収穫を、弟子たちが任されたのだ。

■ 派遣されてきた、使徒ペテロとヨハネの前で、サマリア人の上に聖霊が降った。

サマリア人への宣教の扉
が開かれた!!



Ⅱ.パウロの回心



【サウロの追跡】 使徒9:1~2

■ サウロは、イスラエルの北、シリアの
ダマスコまで逃れた弟子たちを追ってきた。

■ その時、天からの光がサウロを照らした。
「彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。な
ぜわたしを迫害するのか」という声を聞いた。
彼が、「主よ。あなたはどなたですか」と
言うと、お答えがあった。「わたしは、あなた
が迫害しているイエスである。使徒9:4~5」

■ サウロは、主に打たれ、目が見えなくなり、
同行者に手を引かれてダマスコに行った。



【アナニアへの呼びかけ】 使徒9:15~16

■主は、ダマスコにいた弟子のアナニアをサウロのところに遣わした。

「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならないかを、わたしは彼に示すつもりです。」

■目を開かれたサウロは、その時から、イエスこそ、メシアであると、聖書から解き明かし始めた。

■サウロは、異邦人への使徒として選ばれ、後に、世界宣教の大きな働きを担うことになる。



【使徒の働きが記す 福音の広がり】

イエスの昇天 1

聖霊降臨・ペンテコステ

【ユダヤ人伝道】エルサレム

聖霊降臨②

ステファノの殉教・大迫害

【サマリア伝道】

聖霊降臨③

サウロの回心 9

8

2~6 2

ペテロ (15年間)

パウロ (15年間)



【③異邦人への聖霊降臨】 使10～12章

- 異邦人で、「神を畏れる者」だった、カイザリアの百人隊長コルネリオのもとへペテロが派遣され、福音を宣べ伝えた。
- イエスをメシアと信じたコルネリオたち、異邦人の上に聖霊が降り、しるしとして、異言が語られた。
- 異邦人の彼らも、福音を信じ、イエスの名によるバプテスマを受けた。
- 一方、王ヘロデ・アグリッパ一世の手により、ヤコブが、使徒で最初の殉教者となった。

異邦人へ宣教の扉が開かれた!!



【使徒の働きが記す 福音の広がり】

イエスの昇天 1



聖霊降臨・ペンテコステ



【ユダヤ人伝道】エルサレム

2~6 2

聖霊降臨②

ステファノの殉教・大迫害

7



【サマリア伝道】



聖霊降臨③

8

サウロの回心 9



【異邦人伝道】



聖霊降臨④

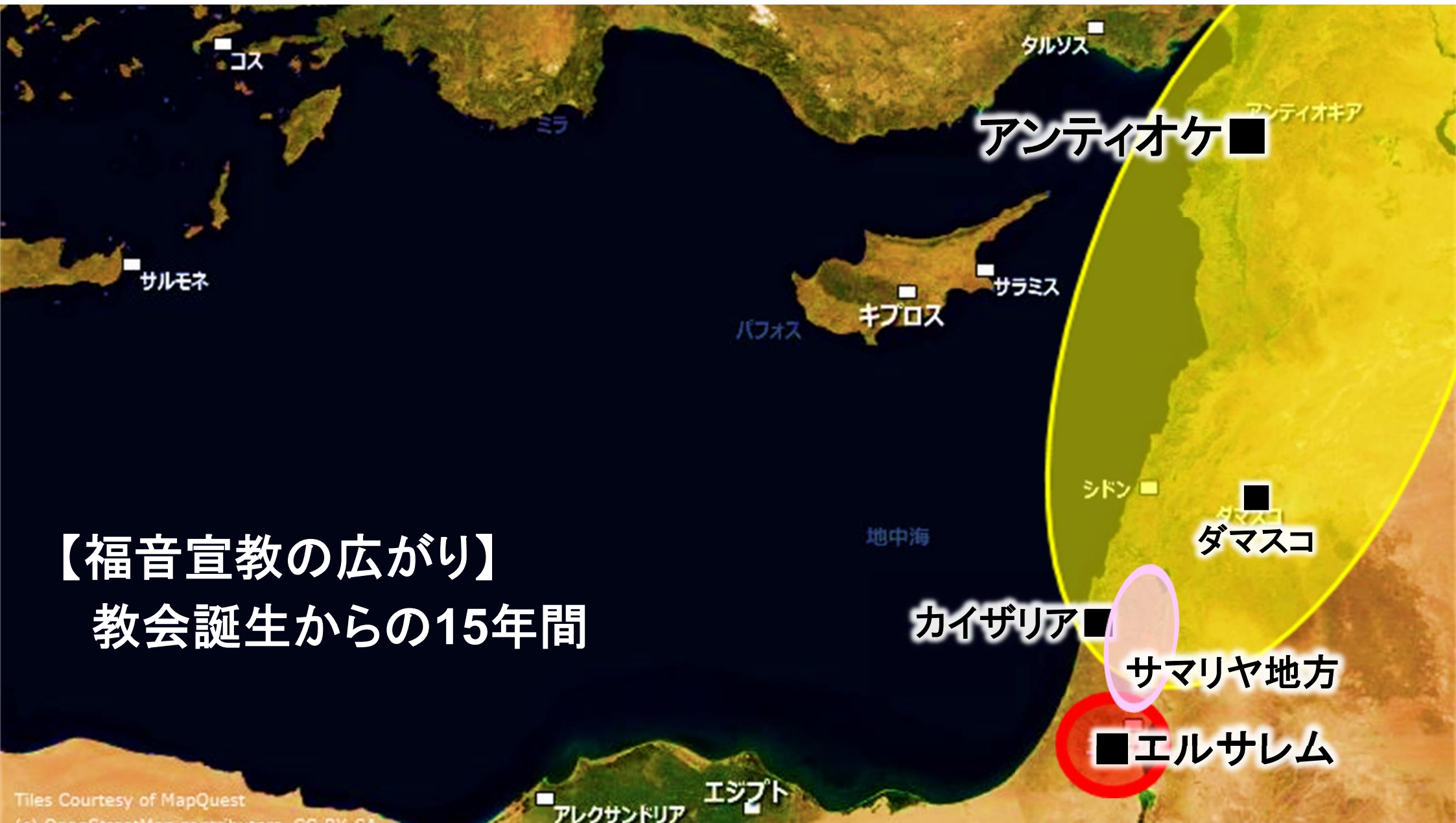
ヤコブの殉教・迫害 12



パウロ (15年間)

ペテロ (15年間)

【福音宣教の広がり】
教会誕生からの15年間



Ⅱ. パウロ篇

異邦人伝道 世界宣教



【パウロとは？】

- サウロ(ヘブル名)、パウロ(ギリシャ名)
- キルキス州のタルソス出身。(現トルコ)
- 離散のユダヤ人 (ディアスポラ)。
“ギリシャ語を話すユダヤ人”
- 生まれながらのローマ市民。

- 熱心なパリサイ派。
エルサレムでガマリエルから律法を学ぶ。
- ステパノの殺害に同意し、その場にいた。

- 回心後は、命がけで伝道。異邦人の使徒。
最も多くの神学的書簡を残した。



【使徒の働きが記す 福音の広がり】

イエスの昇天 1

聖霊降臨・ペンテコステ

【ユダヤ人伝道】エルサレム

聖霊降臨②

ステファノの殉教・大迫害

【サマリア伝道】

聖霊降臨③

サウロの回心 9

【異邦人伝道】

聖霊降臨④

ヤコブの殉教・迫害 12



ペテロ (15年間)

パウロ (15年間)

【バルナバとサウロの派遣】 使13:2～3

- サウロは、シリア北部のアンテオケ教会に集っていた。エジプトやキプロスなど、地中海の様々な地域出身のユダヤ人が集っていた。
- あるとき、聖霊が、アンテオケ教会の指導者だったサウロと、バルナバを宣教に遣わした。
- これが、第一回の伝道旅行である。



【第一回宣教旅行】 使13～14章

小アジア(トルコ)の
南部を巡った。

【宣教のパターン】

- ①ユダヤ人の会堂で
ユダヤ人に宣教
- ②異邦人に宣教
- ③信者に聖書を教え
指導者を育成、長老を任命
- ④ユダヤ人の迫害が起こる
- ④次の町へ



【異邦人の使徒パウロの伝道の原則】

「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、*信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。ロマ 1:16」

*** for the Jew first and also for the Greek.**

(福音は、まずユダヤ人に、それからギリシヤ人に)

- ①まずユダヤ人に福音を伝え、
- ②異邦人に伝える。

【エルサレムの使徒会議】 使15章

- 宣教旅行の成果と、異邦人信者の増加を受け、エルサレム使徒会議が開催された。
- 異邦人には、モーセの律法を守る義務も、割礼を受ける必要もないと明らかに。

使15:11「私たちが主イエスの恵みによって救われたことを私たちは信じますが、あの人たちもそうなのです。」

➡ 異邦人も信仰と恵みによって救われる。

- さらに異邦人伝道が本格化していった!!



【使徒の働きが記す 福音の広がり】

イエスの昇天 1



聖霊降臨・ペンテコステ



【ユダヤ人伝道】エルサレム

2~6 2

聖霊降臨②

ステファノの殉教・大迫害

7



【サマリア伝道】



聖霊降臨③

8

サウロの回心 9



【異邦人伝道】



聖霊降臨④

ヤコブの殉教・迫害 12

宣教旅行①

13
14

エルサレム使徒会議 15

パウロ (15年間)

ペテロ (15年間)

【第二回 宣教旅行】

使15～18章



15章36節から、
サウロ(ヘブル名)→パウロ(ギリシヤ名)へ
記述が変更。

※本格的な異邦人伝道の開始を境目に!!

【ヨーロッパ伝道の始まり】 使16章

■ アジア州(トルコ)伝道を聖霊が禁じた。

■ パウロはマケドニア人(ギリシャ)人が、
救いを求める声を夢で聞く。

■ パウロはエーゲ海を渡り、ギリシャの
フィリピへ。

■ ヨーロッパでの伝道の始まり。

➡ 異邦人伝道がいよいよ本格的に!!



【使徒の働きが記す 福音の広がり】

イエスの昇天 1

聖霊降臨・ペンテコステ

【ユダヤ人伝道】エルサレム

聖霊降臨②

ステファノの殉教・大迫害

【サマリア伝道】

聖霊降臨③

サウロの回心

【異邦人伝道】

聖霊降臨④

ヤコブの殉教・迫害

宣教旅行①

エルサレム使徒会議

宣教旅行②

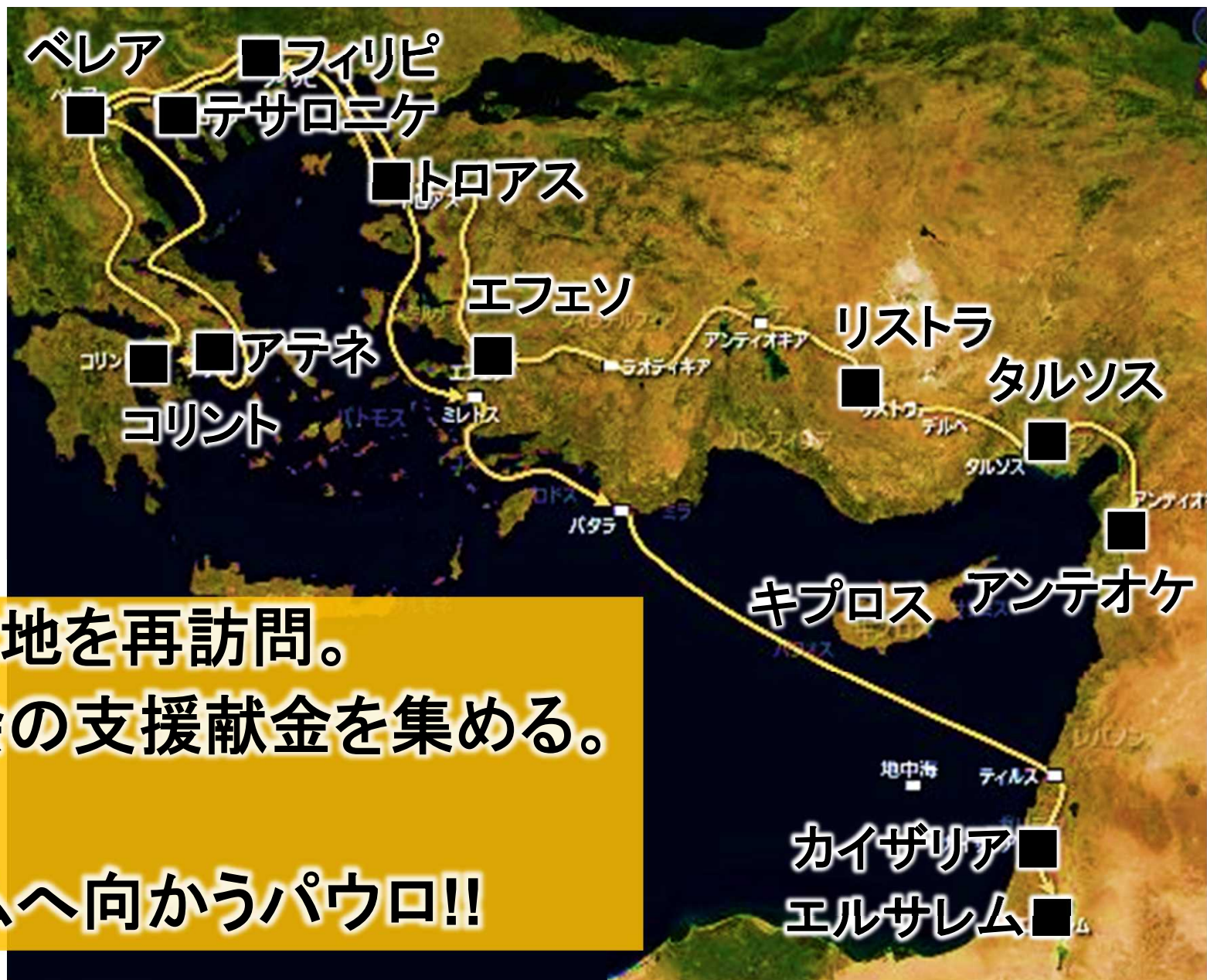


パウロ (15年間)

ペテロ (15年間)

【第三回 宣教旅行】

使18～20章



- ・これまでの宣教地を再訪問。
- ・エルサレム教会の支援献金を集める。
- ・聖霊に促され、再びエルサレムへ向かうパウロ!!

【使徒の働きが記す 福音の広がり】

イエスの昇天 1



聖霊降臨・ペンテコステ



【ユダヤ人伝道】エルサレム

2~6 2

聖霊降臨②

ステファノの殉教・大迫害

7

【サマリア伝道】



聖霊降臨③

8

サウロの回心

9



【異邦人伝道】



聖霊降臨④

ヤコブの殉教・迫害

12

宣教旅行① 13 ~ 14

エルサレム使徒会議 15

宣教旅行② 15 ~ 18

宣教旅行③ 18 ~ 20

パウロ (15年間)

ペテロ (15年間)

【パウロの逮捕】 使徒21:30

- 仲間の警告にも関わらず、エルサレム教会への献金を持って、エルサレムへ上ったパウロ。
- パウロは、神殿を律法を冒涇したとして、事実無根の罪で、ユダヤ人たちに捕らえられた。
- 殺される寸前、ローマによって保護され、ローマ総督が常駐していたカイザリアへ連行された。
- ユダヤ人の機嫌を伺う総督によって、パウロは、数年間、牢獄で放置された。
- ようやく裁判の機会を得たパウロは、ローマ市民の権利により、皇帝へ上訴した。
➡パウロは、ローマへ護送されることとなる。



【パウロ・ローマへ】使27章



ローマへ
到着

嵐に遭遇

座礁、難破
犠牲者なく、
上陸。
越冬3ヶ月

航行不能、
漂流2週間

越冬のため、
すぐ先の港へ

パウロの警告は無視

カイザリア
エルサレム



【使徒の働きが記す 福音の広がり】

イエスの昇天 1



聖霊降臨・ペンテコステ



【ユダヤ人伝道】エルサレム

聖霊降臨②

ステファノの殉教・大迫害 7



【サマリア伝道】



聖霊降臨③

サウロの回心 9



【異邦人伝道】



聖霊降臨④

ヤコブの殉教・迫害 12

宣教旅行① 13 ~ 14

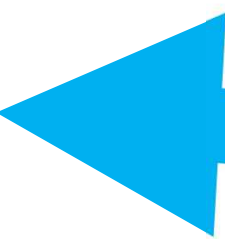
エルサレム使徒会議 15

宣教旅行② 15 ~ 18

宣教旅行③ 18 ~ 20

パウロの逮捕・監禁 21 ~ 26

パウロのローマへの護送・難破 27



パウロ (15年間)

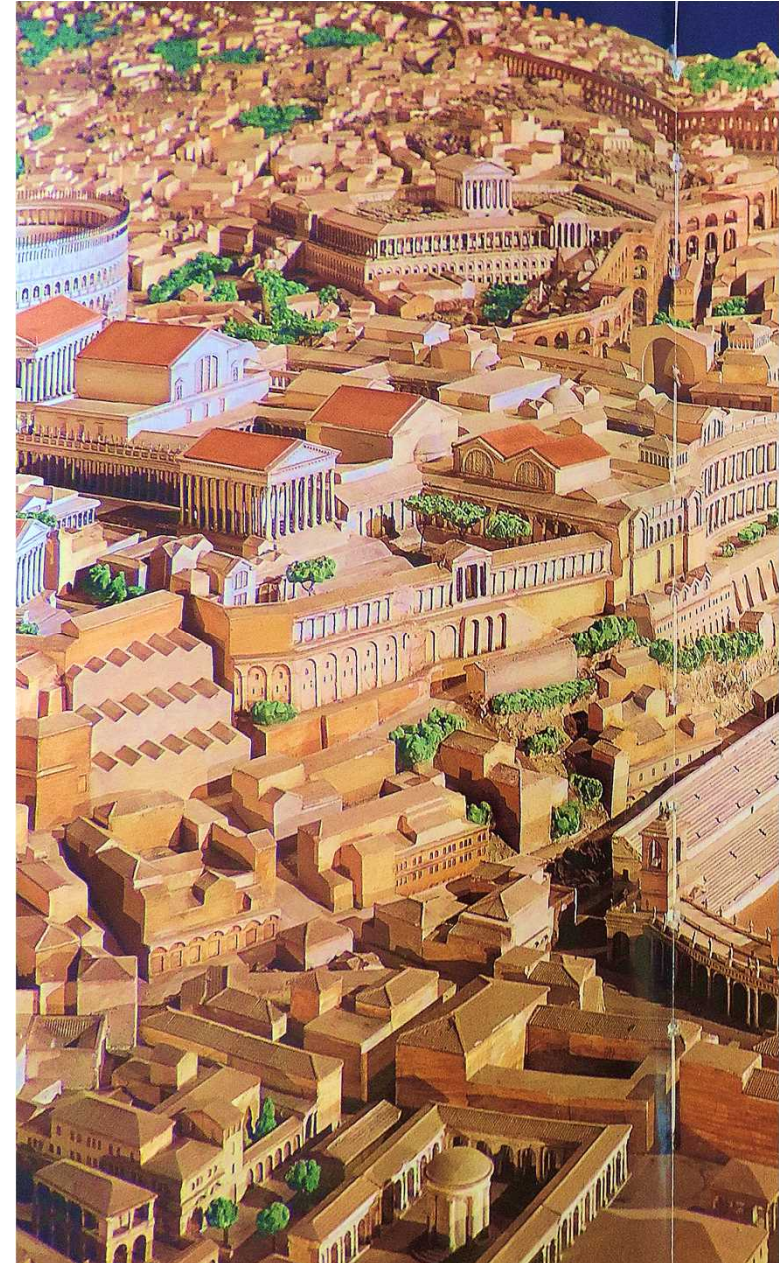
ペテロ (15年間)

【ローマでの伝道】 使徒28章

■パウロは、寛大な措置を受け、兵士の見張りつきながら、ある程度の自由を得た。

■パウロは、訪問してきたユダヤ人に、福音を伝えたが、彼らの多くは拒んだ。
「28:28 ですから、承知しておいてください。神のこの救いは、異邦人に送られました。彼らは、耳を傾けるでしょう。」

■ローマでも、パウロは、伝道の原則を貫いた。
➡福音は、まず、ユダヤ人へ
そして、異邦人へ。

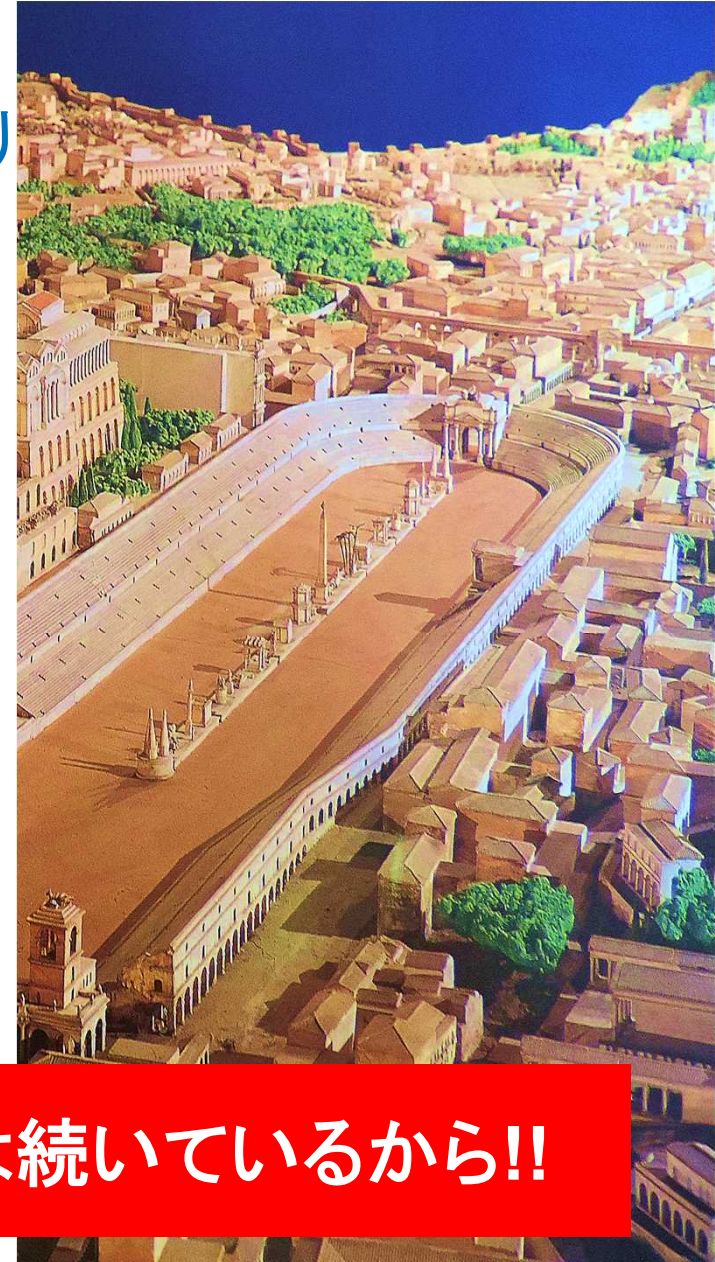


【ローマでの伝道】 使徒28章

「28:30 こうしてパウロは満二年の間、自費で借りた家に住み、たずねて来る人たちをみな迎えて、大胆に、少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。」

- パウロは、ネロ皇帝に時の大迫害により、斬首刑を受けて殺されたと伝えられている。
- どんな迫害も、福音宣教を妨害できない。
➡ 迫害の中で、むしろ福音は広がってきた。
- 「使徒の働き」は、未完のまま終わっている。

なぜなら、今も、キリストの弟子による伝道は続いているから!!



【使徒の働きが記す 福音の広がり】

イエスの昇天 1



聖霊降臨・ペンテコステ



【ユダヤ人伝道】エルサレム

聖霊降臨②

ステファノの殉教・大迫害 7



【サマリア伝道】



聖霊降臨③

サウロの回心 9



【異邦人伝道】



聖霊降臨④

ヤコブの殉教・迫害 12

宣教旅行① 13 ~ 14

エルサレム使徒会議 15

宣教旅行② 15 ~ 18

宣教旅行③ 18 ~ 20

パウロの逮捕・監禁 21 ~ 26

パウロのローマへの護送・難破 27

【ローマ伝道】 28

さらに世界へ

パウロ (15年間)

ペテロ (15年間)

Ⅲ. まとめと適用

教会時代の信者の使命



【短期間に福音が広がった理由】

■福音は、30年で、エルサレムからローマまで拡大。

神が用意された時

①ローマによるインフラ設備

- ・張り巡らされた道路網。地中海の航路。(交通)
- ・強力なローマ軍の統治による治安の安定。(治安)
- ・地中海諸国の公用語・ギリシャ語。(言葉)

②離散のユダヤ人による伝道のインフラ

- ・各地のユダヤ人共同体にある会堂(シナゴーグ)。
- ・ユダヤの会堂に集っていた異邦人の存在。
(改宗者、神を恐れる異邦人)



【教会時代の信者の使命】

■教会時代のすべての信者に対する、主イエスの命令と約束。

「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

マタイ28:18～20

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。使徒1:8」

【使徒パウロが、私たちに託したこと】 Ⅱテモ4:1～5

4:1 神の御前で、また、生きている人と死んだ人とをさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思って、私はおごそかに命じます。

4:2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかきやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。

4:3 というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言ってもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、4:4 真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。

4:5 しかし、あなたは、どのような場合にも慎み、困難に耐え、伝道者として働き、自分の務めを十分に果たしなさい。

【使徒たちが、私たちに投げかけられていること】

- 聖霊を受けたペテロは、命がけで立ち上がり、福音を宣言した。
- ステパノは、死にいたるまで、福音を告げ続けた。
- パウロは、回心の直後から、福音を宣べ伝え始めた。
- 使徒たちは皆、人生のすべてを主に献げ、従っていった。
- 聖霊が、使徒たちを助け、導き、使徒たちは聖霊に従った。

【すべてを委ねるとは？】

- 人生の優先順位が変わること。
- 人生の本当の使命に生きていくとき、人生の景色が変わる。
神の臨在が、私たちの人生を満たしていく。
- 尽きることのない喜びが、私たちの日々に溢れていく。

【使徒の働きが、私たちに託していること】

■福音を伝え、聖書を解き明かし、人々を教え導くこと。

→救われるべき異邦人が、すべて救われる

教会の完成の時まで!!

■困難がある。道を外れる人もいる。偽りの信者もいる。

→しかし、あなたは、道をそれることなく、堅く福音に立ち、宣言していくように。主イエスが命じられている。

■私たちクリスチャンの道は、常に、

福音宣教によって、福音宣教のために拓かれる!!

「天のお父さま。わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

使徒たちと いつも共(とも)にいてくださったように、

わたしの歩(あゆ)むべき道(みち)を 拓(ひら)いてください。

ここから、あなたの福音宣教(ふくいんせんきょう)に、

よろこびもって遣(つか)わしてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」